

鹿島平和研究所講演メモ
「インドを語る」

2012.12.18 榎 泰邦

I. 経済

1. なぜ高度成長が始まったか

(1) 2つの DNA

- ・ 英国植民地の記憶
- ・ 1991 年金融危機 → 経済自由化

(2) 経済自由化

- ・ 貿易
 - ・ 外資規制
 - ・ 産業ライセンス
 - ・ 国営企業民営化と独占分野開放
- * 自由化政策定着に果たした IT ソフト産業

2. 高度成長は続くか

(1) 構造的課題

- ・ 人口構造
- ・ 民主主義の定着

(2) 膨大な内需

- ・ 内需中心の経済構造（中国との違い）
- ・ 溜まり溜まったタンス預金
- ・ 中間層の増大
- ・ 農村経済の拡大 → 新巨大市場
- ・ 膨大なインフラ需要

(3) 環境問題の制約

II. 外交

1. ポスト冷戦の外交重点

- ① 大国志向（労組委員長から世界の重役会議入りへ）
- ② 経済実利外交（Look-East、FTA ネットワーク、資源外交）
- ③ 近隣国重視（対中国、対パキスタン、対 SAARC）

2. 対中国

- ・1962年の屈辱 → 根深い対中不信感
- ・インド洋海上安全保障
 - ：南シナ海への関心
- ・東アジア経済統合を巡る思惑
- ・拡大する対中貿易

3. 対米国

- ・対米関係の緊密化
 - ：インドの思惑
 - ：米国の思惑
- ・非同盟盟主へのノスタルジー

4. 対ロシア

- ・「永遠の友」（一環するロシアのインド支持）
- ・冷戦後、ロシアの位置付けの相対化

5. 対パキスタン

- ・横綱相撲の印パ対立
- ・カシミールは現状維持＋テロ防止
- ・パキスタンの崩壊／イスラム過激化は最悪のシナリオ

III. 内政

1. インド政治を巡る地殻変動

- ・全国政党の弱体化と地方政党の勃興～連立が唯一の選択肢
- ・カースト政党

2. Congress

- ・老舗旅館の女将と番頭
- ・伸び悩みのラフル・ガンディー
- ・付いて回る汚職問題

3. BJP

- ・指導者の高齢化と後継問題
- ・路線問題（ヒンズー至上主義 vs 国民政党としての幅広い支持拡大）

4. 民主主義の定着

- ・ 背景
 - ① インドは独裁体制で統治出来ず
 - ② マハトマ・ガンディーは偉かった
 - ③ 統治の背骨 (IAS 官僚制度、文民統制の利いた軍部)
- ・ IAS 官僚制度

IV. わが国との関係

1. 親日国インド

- ・ 15 億人 vs 15 億人
- ・ 親日の背景

2. 政治主導から経済主導へ

- ・ 平均 10 年に一度のわが国総理の訪問 → 年次相互訪問の定着
- ・ ~2007 年、政治主導
2007 年～、経済主導
- ・ 加速化する日本の経済進出
: 化学変化 (インフラ開発、対象分野の拡大、地理的拡大)

3. 政治協力における変化 ; **Bilateral**→**Regional**

- ・ 対中国
- ・ インド洋海上安全保障
- ・ 東アジア経済統合

END